

本当はすごい！ 小諸の農



世界で評価される 国産プレミアム ワインの産地！	生産量、県内1位。 標高差で長期間 収穫可能！	ふるさと納税 返礼品としても 大人気！	米・食味分析鑑定 コンクール国際大会 金賞受賞！	いちご生産 & ジャム製造の 発祥の地！
--------------------------------	-------------------------------	---------------------------	--------------------------------	----------------------------

知恵と努力で、農産物の質を高めてきた「小諸の農」。

長野県東部に位置し、浅間山麓の南西傾斜地と千曲川沿いの台地からなる起伏に富んだ地形を有する小諸市。耕地の標高は580mから1,200mに及び、一般的には不利な耕作条件である「中山間地」が広がります。

このような耕作条件下でも、農家の皆さんが火山灰土・粘土質・砂地等の多様な土壌を活かし、自然に寄り添いながら適地適作を進めてきたことから、現在では質が高く魅力的な農産物（品目）が、数多く生産されるようになってきました。



課題を乗り越えるために、新たな風を吹かせます。

小規模ながら質の高い農産物を生産してきた小諸の農業ですが、日本中の生産地と同じく、【生産者の高齢化】【後継者不足】などの課題に直面しています。「中山間地域」と「小規模農家」という小諸の特徴は、日本の農業の縮図ともいえます。

市では農家や農業団体とともに、これからも小諸の風土を活かした農業の営みが続いていくよう、小諸の魅力的な農産物全体をブランド化し、更なる付加価値をつける取り組みを進めています。



本特集では、「小諸の農の魅力と課題」を皆さんにも知っていただけるよう、小諸で活躍する農業人にお話を伺うとともに、市の取り組みや地元農産物を楽しめる地産地消協力推進店・直売所を紹介します。

学びは、尽きない



《清水信 さん》
「さくさく農園」（小諸市山浦）で、米・白土馬鈴薯をはじめ、様々な農作物を生産。「米・食味分析鑑定コンクール第20回大会 栽培別部門」金賞受賞。

米・食味分析鑑定コンクール

国内外最大のお米コンクール。第1次審査「食味計」、第2次審査「味度計」による機械分析で一定品質以上のものを選抜し、最終審査で米・食味鑑定士が実際に食べて評価が行われます。毎年約6,000点が出品され、第24回コンクールは2022年に、小諸で開催されます。

「農業自体は、まだまだヒヨッコなんですよ」。電機・機械業界に20年以上勤務した後、農家に転職した清水さん。米・食味分析鑑定コンクールで最高賞を受賞した父・紀久夫さんのもとで米づくりをはじめ、7年が経ちました。米をより深く学びたいと思い、「農産物検査員」の資格を取得。コロナ禍でも、「販売士」資格を取得し、通販サイトを開設しました。サイトでは、他の農家の野菜や加工品も購入できる仕組みになっています。

「どちらかというと理系で、勉強する時間は、苦ではない。農業って、理科の実験的な部分もあるんです。」と話す清水

さん。限られた労働力でも効率的に生産ができる、機械化・IT化された「スマート農業」を目指しています。

「アグリシフト」

「KOMORO AGRISHIFT（こもろアグリシフト）」にも参加。小諸の農家が長年かけ



この時期は、「どんなものができるかな」「今年はどううまくいくな」と、ワクワクします。

農業の魅力と土づくり

「子どもたちにも、土と触れ合ってほしい。小諸の元気な農産物が気軽に買える場所も増やしていきたいですね。」

清水さんは、農業と地域の関わりを深める取り組みにも力を入れています。

「子どもたちにも、土と触れ合ってほしい。小諸の元気な農産物が気軽に買える場所も増やしていきたいですね。」

一年間の計画からはじまり、種をまき、育て、収穫し、出荷し、お金をいただく。他にも、経理やHP更新、お客様への営業など…。

「農業には、ひとつの会社のなりわいが全て詰まっています。もちろん、自分ひとりですべてできるわけではなく、たくさんの仲間と一緒に頑張っています。仲間づくりだって、大切な仕事です。」

「土づくりはまだまだ始まったばかり。スマート農業なんていっても、田・畑に出ることに大切なのは変わりません。農業の本当の醍醐味、わかるのはこれからです（笑）」。



1 千曲小5年生との「土のがっこう」。農業全体が元気になることが大切と語る清水さん。農業や農産物を身近に感じてもらうため、様々な活動に尽力している。
2 【幻の白いも】白土馬鈴薯の種まき。

つくる農から “つなく農”へ



— KOMORO AGRI SHIFT プロジェクト —

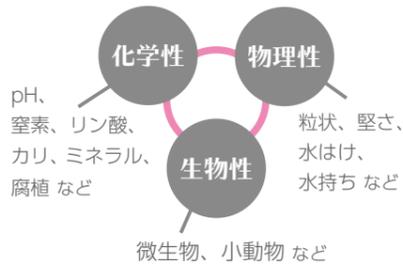
小諸市は、農家・農業団体等と一体となり、“小諸の農”のファン獲得に向けて、収穫して終わりではなく、その想いや考えを様々な人に届けるまでやりきる“つなく農”を「KOMORO AGRI SHIFT プロジェクト」として推進しています。

このプロジェクトでおこなった生物性の「土壌の健康診断」によって、小諸は「土壌の微生物が多様で活発な稀有な地域である」ことが分かってきました。小諸とその農業が、100年先まで続く産地・産業となるために、先人たちが長きにわたって試行錯誤を繰り返してきた「元気な土づくり」を強みとして、「元気な生命をつなぐ」、採れたて料理を通じて「農家の想いをつなぐ」、癒しの農体験を通じて「農が持つ力をつなぐ」という3つのアクションに取り組んでいます。

100年続く産地を目指した、小諸の農のファンづくりプロジェクト

「元気な土」の見える化

土の豊かさを表す3つの視点



生物性に着目し、特許技術「土壌微生物多様性・活性値」を用いて見える化。

「元気な農産物」と農家の想いを採れたて料理で伝える



レシピ開発 & ファン交流の場
「Cooking Lab」

農家の想いを伝える「二十四節気レシピ」



「耕す農」から「共有する農」へ農の持つ力をつなぐ

農風景・農作業・農文化・農業技術の共有



野外美食イベント
「ダイニングアウト」



ワイン生産者と収穫体験 & メーカーズディナー

元気な農産物や加工品を楽しめる「地産地消地域推進協力店」

小諸市地産地消推進協議会では、小諸産農産物や農産加工品などを提供し、小諸の顔となる事業者を「小諸市地産地消推進協力店（事業所）」として認定しています。（現在までに、56店舗を認定。）魅力あふれる「おいしいこもろ」をぜひご堪能ください。

地産地消協力店の皆さんの情報や小諸の旬の情報はコチラ →



旬の野菜がいっぱい!! 市内7つの「農産物直売所」

- ①直売所 たきばら駅 ☎ 滝原 52-10 ☎ 22-8295
- ②眺望一番ひしの直売所 ☎ 菱平 312 ☎ 22-1451
- ③グリーンロード直売所 ☎ 八満 1104 ☎ 23-2246
- ④三岡ふれあいセンター直売所 ☎ 耳取 615-3 ☎ 24-4177
- ⑤小諸大橋直売センター ☎ 山浦 916-2 ☎ 25-6441
- ⑥あぐりの湯直売所 ☎ 大久保 1145-1 ☎ 24-4126
- ⑦浅間自由市場直売所 浅間のかおり ☎ 御影新田 493-1 ☎ 46-8548



※各直売所の営業期間・時間等はお問い合わせください。

久保産直会会員 小池宏昌さん



一生できる仕事があった。

未来と魅力を感じて

大手居酒屋チェーンで、長野・山梨県店舗の店長を務めた小池宏昌さん。飲食業界で頑張るつもりでしたが、昼夜逆転で、3カ月毎に職場が変わる働き方に限界を感じます。親戚のレストランを手伝いながら、次の仕事を探していたとき、目が向いたのが農業。「温暖化で、小諸でも良いワイン用ぶどうが育てられるという話を聞き、農業って面白そうだな、と思いました。」

露地栽培の大玉トマト

いま、小池さんがなりわいとしているのは「大玉トマト」の栽培です。農大の現地研修で出会ったのが、久保の露地トマト。ハウス栽培で黄色の「高原の露地栽培大玉トマト」は、卸先の東都生協では、新規購入希望を受け付けられないほど大人気。「それでも、生産者が減って困っています。いつも、仲間を探しています。」

「高原の露地栽培大玉トマト」一緒に作りませんか？

「久保産直会」では、会に加入し東都生協との契約栽培をする生産者を募集しています。育て方の伝授や資材提供など、生産をはじめるにあたってのサポートも充実しています！

☎ 農林課 農業ブランド振興係

販路はあるのに：

「80歳を越えるおじいさんたちが、どっちがいいトマトを作るか、とバチバチやり合っていたんです。その熱さが素直にかっこよかったです。トマトをはじめると決めた瞬間です。」

「後半の人生は、土と触れ合いたいと思っていて。子ども頃からこの地域を何度も訪れ、好きだったんです。」
そう話してくれた岡本なるみさんは、東京で四半世紀勤めた出版社をやめ、小諸でワイン用ぶどう栽培をスタートして、4年が過ぎました。東信地域と縁を作りたいという思いもあり、千曲川ワインアカデミーで栽培・醸造を学んだあと、里山の美しい風景が広がる糠地の地に惹かれ、移住してきました。

多くの人に喜びを：

自らの畑で初収穫となったぶどうで、今年初めてワインをリリース。初商品は全287本がネットですぐに完売し、ひと安心。それとにも分かったことがあります。「買ってくださった方々が、家族や大切な人とワインを楽しんでいる写真やメッセージをSNSでどんどん送ってくれました。この瞬間のためにやってきたんだ！、と確信しましたね。」

岡本さんには、他にもささやかで大きな夢が。「知り合いを呼べる露天風呂を作りたい。小さな醸造所も作り、皆さんにふるまえたら素敵ですね。」

小諸に惚れ込んで

農花ヴィンヤード園主 岡本なるみさん



憧れの地で、土と触れ合う。